

令和2年度 富屋小学校 学校評価書

1 教育目標（目指す児童像含む）

（1）基本目標

豊かな心と健やかな体をもち、自ら考え進んで学び、次代をたくましく生きる児童の育成

（2）具体目標（具体的な児童生徒像など）

富屋の子：元気・根気・思いやり

○元気でやりぬく子 ○自分で考え進んで学ぶ子 ○仲間のために考えはたらく子

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

「地域に根ざし、児童が生き生きと活動する学校の創造」

富屋地区の特性は、恵まれた自然、豊かな歴史と文化、地域の人々の強い絆である。これらを基盤とした「潤いと活気あふれる学校づくり」に取り組み、児童が郷土を愛し、自立して力強く生きていくための「確かな学力・豊かな心・健やかな体」を育むことを目指す。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- （1）地域の特性や教育力を生かした特色ある教育活動の推進
- （2）道徳科の授業や体験活動を中核に、自他の生命を尊重し、感謝や思いやりなどの豊かな心を育成するための教育活動の推進による、いじめを生まない指導の充実
- （3）自信や自己有用感を育成するため、積極的に児童一人一人のよさを認め励ます教育の推進により、居がいのある温かい雰囲気ของ学級経営等による、不登校を生まない支援の充実
- （4）学ぶ意欲の向上と基礎・基本の確実な定着を図り、主体的に学ぶ態度の育成とともに、学習課題をはっきり理解させ、見通しを大切に「わかる授業」の一層の充実
- （5）基本的な生活習慣の確立と社会性の育成を図る児童指導の充実
- （6）自らの健康を大切にする能力や自己の安全を守る能力の育成
- （7）勤務時間を意識した働き方の推進と、教育公務員としての使命感と誇りをもって、自らの資質の向上に努める職員研修の充実
- （8）地域に開かれ、信頼される学校づくりの推進（地域はみんなの学校）

「晃陽地域学校園教育ビジョン」

「地域に根ざし、子どもが生き生きと活動する晃陽地域学校園」
－児童生徒の学習習慣の定着と学力向上を目指して－

4 教育課程編成の方針

（1）基本方針

- ・国、県、市の方針を受け、本校教育目標達成のための経営方針や努力点、学校評価の反省等を踏まえた編成
- ・基礎的・基本的な内容を重視しながら、創意工夫を生かした教育及び特色のある学校づくりを意図した編成
- ・カリキュラムマネジメントの視点のもと、教育活動全体を通して学校教育目標が達成されるような編成

（2）留意事項等

- ・教育課程全体のバランスを図りながら、学習指導要領のねらいが実現可能な指導時間の十分な確保
- ・問題解決的な学習や体験的な学習による、主体的・対話的で深い学びの実現と、思考力、判断力、表現力の伸長
- ・学習形態や指導体制の充実による、個に応じたきめ細かな指導の充実
- ・道徳科の授業の充実による、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度の育成
- ・外国語を通じて言語や文化についての体験的な理解と、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成
- ・総合的な学習の時間のねらいに即し、本校の特色を生かした横断的・総合的な学習や探求的な学習の推

進と指導の充実

- ・相互関連が十分配慮された特別活動の実施と、自発的・自治的活動を高める指導の工夫
- ・すべての教育活動を通した、好ましい人間関係の構築と生活指導の充実、および「宮っ子の誓い」の意識化、実践化
- ・県・市の人権教育基本方針に基づいた、人権尊重の理念についての理解
- ・「元気っ子健康体力チェック」の結果を踏まえた指導の、より一層の充実
- ・自他の生命を尊重し、健康で安全な生活を営む態度を育成するための、交通安全教室や避難訓練等の効果的な実施
- ・コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段に慣れ親しみ、適切に活用できるようにする情報活用能力の育成
- ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業の実践と、インクルーシブ教育の理念を踏まえた特別支援教育の推進
- ・「宮・未来キャリア・パスポート」の活用による、自身の夢や目標を実現しようとする意欲や態度の育成
- ・地域に根ざした総合的な学習の時間「富屋ふるさと学習」の推進による、地域を愛し、大切にしていこうとする態度の育成

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

- 【学 校 運 営】学校・家庭・地域の連携体制を基盤とした、地域に根ざした信頼と魅力ある学校づくりの推進【創意工夫と活力ある教育活動の展開】
- 【学 習 指 導】○自分で考え、進んで追究し、生き生きと表現することができる児童の育成
～基礎・基本を確実に定着させ、主体的に学ぶ態度を育てるための効果的な指導法の研究～
- 【児 童 生 徒 指 導】○生命の尊さを理解し、思いやりの心をもって正しく判断し、たくましく行動することができる児童の育成
- 【健康（体力・保健・食・安全）】○健康的な生活習慣を身に付け、積極的に運動に取り組み、進んで体力を高めようとする児童の育成

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
	A 1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、授業中、話をしっかりと聞いたり発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる。」における肯定的回答 ⇒児童 85%以上	① ICTを活用した教材・教具の工夫や、課題解決のための話し合い活動の場の設定を効果的に行う。 ② 朝の学習に「学力強化週間」や「チャレンジ学習」を設け、基礎・基本の定着と応用力育成を目指す。 ③ 学校だよりや学年だより等を通して、協働的な学習の充実を図った授業や児童の取組についての情報発信を積極的に行う。	B	【達成状況】 児童 87.2% ・「学力強化週間」や「チャレンジ学習」を朝の学習の時間に定期的に設ける計画を立てたが、十分な時間がとれなかった。また、ICT を効果的に活用することにより、自分から学習に取り組む態度が身に付いた。 【次年度の方針】 ・朝の学習の時間に基礎・基本を身に付ける問題や、活用力を身に付ける問題に取り組ませることにより、学力の定着を図る。

目 指 す 児 童 の 姿	A2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒教職員 85%以上	① 道徳科の授業を通し、生命や人権を尊重する心や、人を思いやる心などを育てる。 ② 人権教育年間活動計画に基づき、全教育活動を通して人権教育を計画的に実施する。 ③ 各種特別活動において、他との交流を深める活動を取り入れ、相手の立場を考えて思いやる心を育む。 ④ 学校だより等を通して、人権教育について情報発信を行う。	B 【達成状況】 児童 82.7% 教職員 90.0% ・道徳などの時間を用いて生命尊重や思いやりの心を育ててきた。 ・特別活動などで他との交流を深める時間が不十分だったため、相手の立場に立った言動が取れないことがあった。お互いを尊重し合って生活する雰囲気醸成することが必要である。 【次年度の方針】 ・道徳の授業を中心とし、学校の全教育活動を通して人権意識を育てる取り組みを継続する。
	A3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、きまりやマナーを守って生活している。」 における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上 ⇒保護者 85%以上	① 「富屋小のきまり」を守る指導を通して、社会のきまりを守る態度を育成する。 ② 児童の実態に応じた月ごとの生活目標を立て、家庭にも周知して、ルールやマナーに対する意識を高める。 ③ 室内での過ごし方・廊下の歩行・言葉遣いなどのきまりについて、児童会活動などを通して児童自らがその意義を考え、守れるよう工夫をする活動に取り組ませる。 ④ 校内の環境を整えとともに、生活当番を中心として児童の生活の状況を確認し、課題などを共通理解して指導にあたる。	A 【達成状況】 教職員 80.0% 保護者 88.7% ・月の教育目標について振り返る活動などを通して、きまりを意識させる取り組みを行ってきた。 ・室内の過ごし方、時間を守ることなどを守れていないことがあった。 【次年度の方針】 ・打ち合わせの機会などで教職員の共通理解の元、きまりやマナーを守ることについて、指導していく。
	A4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」 における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上 ⇒保護者 85%以上	① 教師自らが積極的に児童に声をかけ、日常から誰にでも元気なあいさつができる雰囲気醸成する。 ② 地域や保護者と連携したあいさつ週間を設定し、意識の高揚を図る。 ③ あいさつへの指導の取り組みについて学校だより・学年だより等で啓発する。	A 【達成状況】 教職員 60.0% 保護者 80.4% ・あいさつ運動週間などの活動を通し、あいさつが自分からできるようになった児童もいるが、個人差が大きい。 ・「どこでも」「自分から」あいさつできる状況までには至っていない。 【次年度の方針】 ・教師が率先して児童に声をかけ、あいさつをする雰囲気醸成する。 ・児童会などで、あいさつをテーマにした取り組みを行うなど、主体的な活動を通して、あいさつについて意識させていく。

A5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、夢や目標に向かって、あきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒教職員 85%以上	① 児童の自己肯定感を高められるよう、児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに、担任も認め励ます指導に努める。 ② 児童が粘り強く取り組む力を育むために、各教科の授業や行事において、児童が目標をもって取り組む機会を設けるとともに、目標の達成に向けて努力している児童を賞賛する。	B 【達成状況】 児童 86.0% 教職員 70.0% ・学校行事などでは、学校全体の雰囲気として、粘り強く最後までやり抜こうとする様子が見られる。 ・学習や日常生活の面では、何事にも粘り強くあきらめずに取り組んでいるところまでには至っていない。 【次年度の方針】 ・引き続き、児童の自己肯定感を高められるよう、児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに、各教科の授業や行事において、コロナ禍における創意工夫をし、児童が目標をもって取り組む機会を設定する。
A6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」 における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上 ⇒保護者 85%以上	① 児童が自分の健康を管理できるよう、生活習慣チェック表などを用いて、養護教諭と担任が連携した、保健指導や日常の生活指導を行う。 ② 健康を意識した望ましい食習慣の形成を図るために、栄養士と連携したランチルームでの給食指導や、食育だよりでの啓発を行う。 ③ 危険を予測し自らの命を守り抜く行動力を育成するため、日常指導における安全指導を充実するとともに、交通安全教室、避難訓練等を計画的に実施する。	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答85.0% 保護者の肯定的回答88.2% ・保健だよりや給食だよりで健康に関する情報を周知できている。今年度は、コロナ予防対策が必須のため意識できている。 ・日常生活での危険予測や防災の意識が高いとは言えない。 ・メディア依存が心配される。 【次年度の方針】 ・引き続き養護教諭や栄養士と担任が連携した保健指導や給食指導、日常の生活指導を行うとともに、交通安全教室、避難訓練等を計画的に実施する。 ・教職員安全点検 ・児童指導と連携して、メディアの使い方の指導を強化したり、授業でも、タブレット導入に合わせて指導をしたりする。
A7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、夢や目標に向かって、あきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒保護者 85%以上	① 宮・未来キャリア教育年間指導計画に基づき、児童が自らのよさを自覚して夢や目標の実現に向けて取り組もうとする意欲や、望ましい勤労観や職業観を、全教育活動を通して意図的・計画的に取り組むとともに、キャリアパスポートを活用した家庭への啓発に努める。 ② 生活や総合の授業におけるふろさと学習を推進し、自分の住む地域のよさを知るとともに、地域の方との交流を図る。	A 【達成状況】 児童 86.0% 保護者 69.1% ・キャリアパスポートが今年度導入されたが、十分に活用できなかった。 【次年度の方針】 ・キャリア教育の見直しを図り、児童自身が先を見据えられるような授業や行事の設定をする。 ・キャリアパスポートの活用をより一層強化する。

A 8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、外国語活動の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒教職員 85%以上	① 外国語活動を通じて、言語や文化についての体験的活動を意図的に増やしていく。 ② 学校内におけるALTとの日常的な交流によって、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。	【達成状況】 児童 85.5% 教職員 85.0% ・ALTと授業や活動の前後に情報交換の時間を確保することで、言語や文化についての体験的活動を増やすことができた。今年度においては、日常的な交流によるコミュニケーションをとることができなかった。 【次年度の方針】 ・ALTとの授業や日常的な交流によって、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。
A 9 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、宇都宮の良さを知っている。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上	① 生活科、社会科、総合的な学習の時間の授業における「宇都宮学」や、市内や地域での校外学習等において、学習内容に関連させながら児童が身近な地域や宇都宮市の良さに気付く指導に努める。 ② 教師自身が身近な地域や宇都宮市の歴史、文化、伝統産業、特産物等について理解を深められるように努める。	【達成状況】 児童 80.4% ・「宇都宮学」の中で宇都宮の良さに触れることができた。生活科・社会科・総合的な学習の時間の授業において、児童は身近な地域の良さに気付き、宇都宮の良さと関連付けることができるようになってきた。 【次年度の方針】 ・生活科、社会科、総合的な学習の時間の授業や、市内や地域での校外学習等において、学習内容に関連させながら、宇都宮市の良さに気付く指導を充実させる。
A 10 児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒教職員 85%以上	① 児童がコンピューターや情報通信ネットワーク等の情報手段に親しみ、適切に活用する能力を育成できるよう、授業においてICT機器を活用する機会を増やす。 ② 各学年のその時期の授業内容との関連に配慮した教育図書の整備充実等、学校図書館の環境整備に努める。 ③ 読書の時間やボランティアや教師、児童による読み聞かせの時間、図書便りの発行等を通して、児童の読書意欲を喚起する。	【達成状況】 児童 83.2% 教職員 95.0% ・児童がコンピューターや情報通信ネットワーク等の情報手段を適切に使用できる機会を設けてきたことで、活用できるようになってきた。 【次年度の方針】 ・児童がコンピューターや情報通信ネットワーク等の情報手段に親しみ、活用する機会を一層増やし、適切に活用する能力を育成する。
A 11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒教職員 85%以上	① 道徳科の授業を通し、生命や人権を尊重する心や、人を思いやる心などを育てる。 ② 人権教育年間活動計画に基づき、全教育活動を通して人権教育を計画的に実施する。 ③ 総合的な学習の時間・特別活動等で、地域の高齢者と交流し・振り返る機会を設け、感謝の気持ちや思いやりの心を育む。	【達成状況】 児童 82.7% 教職員 90.0% ・道徳の授業を通し、思いやりの心を育ててきた。 ・感染症予防のため、高齢者との直接交流はできなかったが、間接的な交流を図ってきた。 【次年度の方針】 ・感染症予防を徹底した上での交流の在り方について検討していく。

	A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 「環境問題や防災等の「持続可能な社会」について、関心をもっている。」における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒教職員 85%以上	① 自然や環境に関する各教科領域における学習、児童会活動での呼び掛け、学級での日常指導を通して環境問題に対する関心を高め、環境と調和しながら生きる意識や態度を育成する。 ② 危険を予測し自らの命を守り抜く行動力を育成するため、日常指導における防災教育を充実するとともに、地震や竜巻などの避難訓練等を計画的に実施する。	A 【達成状況】 児童 80.4% 教職員 40.0% ・環境問題について、漠然とした知識はあるものの、理解したり自分の考えをもったりするところまでは至っていない。 【次年度の方針】 ・教職員自身、持続可能な社会に関する知識や意識が低いので、職員研修や月の目標等に盛り込む。 ・引き続き各教科領域における自然や環境に関する学習や防災教育を推進するとともに、代表委員や美化委員など、児童会活動やごみの分別等の日常指導が環境問題と関わりがあることなどに目を向けさせる。
	B1 児童は、学校の授業や家庭学習に意欲的に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 肯定的回答 ⇒児童 80%以上 ⇒教職員 80%以上	① 授業中の挙手やグループ活動など進んで積極的に行って意欲的である。 ② 宿題や自主学習など進んで取り組み提出も忘れずに行っていて、意欲が高い。	B 【達成状況】 児童 77.0% 教職員 85.0% ・授業ではめあてを明確化し、それに沿った学習活動や振り返りを行うことを継続してきたが、挙手や積極的な発言など学ぶ意欲の高揚にはつながらなかった。 ・家庭学習については強化週間などで定着を図っているが、取り組みの内容・時間等に個人差が見られる。 【次年度の方針】 ・引き続き各教科・学年に応じた授業改善に努め、児童の変容を教職員で共有し学ぶ意欲を高めていきたい。 ・家庭学習の習慣づけや意欲・意識を高めるために学びポケットやタブレットを活用した宿題や自主学習の工夫をしていく。
目指す学校の	A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童の実態に応じて、適切な支援をしている。」における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上	① 特別支援教育コーディネーターや児童指導主任を中心に、全校で特別な支援が必要な児童に対する共通理解を図り、一人一人のニーズを踏まえた支援を行う。 ② 特別支援学級の児童はもとより、通常学級においても、必要において個別の支援計画を作成し、それに基づく合理的な配慮を伴う指導に努める。	B 【達成状況】 教職員 95.0% ・研修会や、ケース検討会議などを通して、個に合わせた支援の在り方について、組織的に対応してきた。 ・外部機関との連携について、積極的に取り組んできた。 【次年度の方針】 ・組織的な対応と、外部機関との積極的な連携を今後も継続する。

姿	A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、いじめ対策に熱心に取り組んでいる。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒保護者 85%以上	① 日ごろからいじめは許されない行為であることを指導するとともに、いじめゼロ強調月間で、スローガン募集やゼロリボン着用、いじめゼロ集会等を実施し、いじめゼロへの意識向上を図る。 ② 「生命尊重」「人権尊重」を重点項目とした道徳科の授業を各学年で実施する。 ③ 学校での取組を学校だより・学年だより等で保護者に知らせる。	【達成状況】 児童 96.1% 保護者 76.7% ・いじめゼロ集会など、児童を主体とした活動を通し、いじめゼロへの意識を高めてきた。 ・学校での取り組みについて、より積極的に周知し、保護者との連携を深める必要がある。 【次年度の方針】 ・子どもの訴えに耳を傾け、小さなきっかけをつかんでいじめの芽を捉え、早期に組織的対応し、保護者と連携して解決を図るとともに、学校での取り組みを各種便り等で周知する。
	A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、不登校を生まないよう、一人一人の児童生徒を大切にし、児童生徒がともに認め励まし合う学級経営を行っている。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上	① 児童の自己肯定感を高められるよう、児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに、担任も認め励ます指導に努める。 ② 教育相談、Q-U調査、欠席状況調査等の結果を活用し、不登校傾向のある児童の早期発見を行い、校内対策委員会を活用し、SCなどの外部人材とともに全職員体制で対策を講じる。	【達成状況】 児童 94.4% ・Q-U調査を利用した学級のアセスメントの研修を行い、学級経営の在り方について、教職員の意識を向上した。 ・全教職員共通理解の元、不登校傾向のある児童に対して組織的に対応してきた。 【次年度の方針】 ・今後も、居がいのある学級づくりについて研修を行うとともに、不登校傾向のある児童への対応を組織的に行うことを継続していく。
	A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童の実態に応じて、適切な支援をしている。」 における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上	① 外国人児童について全校で共通理解を図り、必要な支援やニーズを踏まえた支援を組織的に行う。 ② 児童が、外国の文化に触れる機会を設け、それぞれの国のよさを尊重する態度を育む。	【達成状況】 教職員 95.0% ・道徳科や外国語科・外国語活動などを通し、諸外国の文化について学び、尊重する態度を育成してきた。 【次年度の方針】 ・外国人子女や帰国子女について、全職員が共通理解の元、支援を行う体制づくりを進めるとともに、外国の文化を尊重する態度を育成する取組を継続していく。
	A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケート 「学校全体に活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒保護者 85%以上	① 児童の自発的な集会活動や学校行事等を通し、望ましい集団づくりと個に応じた指導の充実を図る。 ② 児童主体の特別支援学校や高齢者施設等との交流活動やホタル愛護、米作り、民話活動等の「ふるさと学習」の充実を図る。	【達成状況】 児童 83.1% 保護者 91.8% ・ほとんどの児童が、毎日登校し、安心、安全な環境の中で明るく生き生きと学習や生活をしている。 ・コロナ感染症予防を意識した生活を送るので、活気を失った児童もいたかもしれない。 【次年度の方針】 ・引き続き児童の自発的な集会活動や学校行事、学校支援ボランティアを活用した「ふるさと学習」の充実を図る。 ・新しい生活様式を取りながらも、生き生きと生活ができるよう児童へ前向きな意識付けを行っていく。

A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、分かりやすい授業や一人一人へのきめ細かな指導をしている。」における肯定的回答 ⇒児童 85%以上	① 授業のねらいや一人一人の課題を明確にし、板書の構造化や振り返りや、まとめ方を工夫して、児童の思考や理解を深める授業の実践を図る。 ② PDCA サイクルを活用して指導の改善を図り、一人一人への支援の充実を目指す。 ③ 学年だより等を通して、協働的な学習の充実を図った授業や児童の取組についての情報発信を積極的に行う。	B 【達成状況】 児童 83.1% ・授業のねらいや一人一人の課題を明確にし、児童の実態に即した授業展開や振り返り、まとめ方を工夫して学力向上に努めた。 【次年度の方針】 ・学年だより等を通して、協働的な学習の充実を図った授業や児童の取組についての情報発信を積極的に行う。
A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上	① 学校の諸課題への対応や、学校行事の実施等に、かがやきルーム指導員や学校司書業務嘱託員、SC等の専門性を生かしながら、全教職員が一丸となって取り組むよう努める。 ② 教職員一人一人の得意分野やよさを生かす組織運営に努め、困難を感じる業務について気軽に相談し、助け合いながら、同僚性を高めていく。	B 【達成状況】 教職員 95.0% ・各担任だけでなく、それぞれの専門性をもった教職員が小さな課題にも自分のこととしてとらえケース会議や打ち合わせ等を密にもち情報を共有し一丸となって対応している。 ・小さなことでも相談しあう土壌が醸成され、各人が「チーム富屋」を意識し、同僚性が高められている。 【次年度の方針】 ・多様な課題について全職員が一丸となって対応し、情報交換の時間や場の設定を徹底していく。 ・教職員のよさや能力を発揮できるよう校務分掌の適正化に努める。
A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上	① 教職員一人一人が、自己の働き方を見つめ、勤務時間の効果的な使い方や業務の効率的な処理に努める。 ② 各種行事等の企画・運営において、ねらいを明確にしながら、実施方法の工夫・改善を推進し、教職員の負担軽減を図る。 ③ 学習情報システムをはじめとした各種システムを効果的に活用し、業務を効率的に進める。	B 【達成状況】 教職員 75.0% ・コロナ禍の影響により行事等が削減され負担が減ったものもあるが「新しい生活様式」に沿った授業や活動の見直しが求められ、それによる業務の改善が逆に負担感につながっているところもある。 ・急激かつ新たな学習システムの活用要求により、負担増を感じるところもある。 【次年度の方針】 ・行事の実施計画や授業・活動については今年度の経験をいかし、業務の効率化を目指し負担の軽減を図っていく。 ・引き続き、月1回の「リフレッシュデイ」を設け、勤務時間の意識化を図る。 ・学習情報システムや学びポケット・タブレット端末を有効に使う中で「作業の効率化」を目指していく。

A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、「小中一貫・地域学校園」の取組を行っている。 における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上 ⇒保護者 85%以上	① あいさつ運動や中学校訪問、冒険活動教室での交流を円滑に行い、児童が中学校への期待をもつことができるよう努める。 ② 乗り入れ授業や部会ごとの業務連携などにより、教職員の交流・連携の充実を図り、教職員の資質能力の向上に努める。	【達成状況】 教職員 95.0% 保護者 86.0% コロナの影響で、あいさつ運動は実施したが、他の活動については縮小せざるを得なかった。しかし、DVDの視聴を通し、中学校への期待に繋げることが出来た。 【次年度の方針】 引き続き、中学生や保護者、他校小学生との交流を図り、中学校への期待を持つことができるよう努めていく。また、教職員の資質能力の向上につながるよう、小・中の教職員の連携の充実を図っていく。
A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、家庭・地域・企業と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 における肯定的回答 ⇒保護者 85%以上 ⇒地域住民 85%以上	① 地域の人材や教育資源を有効に活用するとともに、人材の確保に努める。(富屋再発見、ホタル学習、学校田活動、地域施設見学、読み聞かせボランティア、民話活動等) ② 地域と連携した教育活動を推進する。(ファイトとみや、収穫祭) ③ 地域協議会との連携により、学校運営の充実を図る。	【達成状況】 保護者 89.5% 地域住民 86.7% コロナの影響で実施できないものも多かったが、その中でも、富屋再発見や学校田活動、民話活動などを感染防止に努めながら、工夫して実施した。例年に比べ、規模は縮小したが、地域に愛着を持つ児童の育成に繋がっている。 【次年度の方針】 コロナの収束状況にもよるが、引き続き、地域の人材や教育資源を有効に活用し、地域と連携した教育活動を推進していく。
A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 における肯定的回答 ⇒保護者 85%以上 ⇒地域住民 85%以上	① 地域の人材や教育資源を有効に活用するとともに、人材の確保に努める。(富屋再発見、ホタル学習、学校田活動、地域施設見学、読み聞かせボランティア、民話活動等) ② 地域と連携した教育活動を推進する。(ファイトとみや、収穫祭) ③ 地域協議会との連携により、学校運営の充実を図る。 【A22①, ②, ③再掲】	【達成状況】 保護者 89.5% 地域住民 86.7% コロナの影響で実施できないものも多かったが、その中でも、富屋再発見や学校田活動、民話活動などを感染防止に努めながら、工夫して実施した。例年に比べ、規模は縮小したが、地域に愛着を持つ児童の育成に繋がっている。 【次年度の方針】 コロナの収束状況にもよるが、引き続き、地域の人材や教育資源を有効に活用し、地域と連携した教育活動を推進していく。
A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上 ⇒保護者 85%以上	① 毎月安全点検を実施し、危険箇所については迅速な改善や修繕に努める。 ② 時期に応じて熱中症予防や感染症蔓延に対する予防などを図るため、保健指導管理に努めたり、養護教諭や栄養士の授業参加を推進したりする。	【達成状況】 教職員 100% 保護者 93.1% ・必要に応じた迅速な修繕や保健指導管理などが行われ、児童にとって安心、安全な環境の中で学習や生活ができています。 【次年度の方針】 ・引き続き危険箇所について迅速な改善や修繕に努め、時期に応じて熱中症予防や感染症に対する予防などを図るため保健指導管理に努める。

A25 学校は、学習に必要なＩＣＴ機器や図書等を整えている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、ＩＣＴ機器や図書等を学習に活用している。」 における肯定的回答 ⇒児童 ８５％以上 ⇒教職員 ８５％以上	① 児童がコンピューターや情報通信ネットワーク等の情報手段に親しみ、適切に活用する能力を育成できるように、ＩＣＴ機器の管理に努めるとともに、タブレットが活用できる環境を整える。 ② 各学年のその時期の授業内容との関連に配慮した教育図書の整備充実等、学校図書館の環境整備に努める。 【Ａ１０②再掲】 ③ 読書の時間やボランティアや教師、児童による読み聞かせの時間、図書便りの発行等を通して、児童の読書意欲を喚起する。 【Ａ１０③再掲】	【達成状況】 児童 ８３．２％ 教職員 ９５．０％ ・教科書改訂に伴い、各学年の授業内容との関連に配慮した教育図書の整備充実等、学校図書館の環境整備に努めた。 【次年度の方針】 ・GIGA スクール構想の開始により一人一台配備されるタブレットを、児童が活用できる環境を整える。 ・教育図書の整備充実等、学校図書館の環境整備を継続していく。
--	---	--

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- 多くの項目で数値指標を超える肯定的回答が得られた。しかし数値指標を下回る回答も少なからず見られ、評価指標・目標等を達成できているものとできていないものとがみられた。児童と教職員との数値に開きがあるなど、コロナ禍の影響により学習活動の工夫が浸透しないことが原因かと思われる。また本校の強みであった、A22「地域の教育力を生かした特色ある教育活動の展開」、A23「家庭・地域・企業と連携・協力したよりよい児童の育成」については、コロナ禍の影響によりかわりがなくなったため、教職員・保護者・地域住民・児童いずれも例年より低い回答となっており、長年にわたり継続している「地域とともにある学校づくり」の有用性を改めて知る結果となった。
- 学習面に関して、基礎的基本的学習態度の育成を図り、児童の実態に即した授業展開を工夫して学力向上に努めた結果、こうした状況下でも児童は落ち着いて学習に取り組んでいる。ただ、学習指導要領の改訂に伴い今年度より導入された「宇都宮学」「GIGAスクール構想」等については学習の途上にあり、次年度への課題となる。また、児童の学習活動への取組を発信し、家庭との連携を密にすることで家庭学習を充実させ、さらに学力向上をめざしていきたい。
- 保健・食育・体力向上に関して、多くの項目で高い肯定的回答を得ている。しかし、ゲームやメディアに触れている時間や、夢や目標に向かって取り組むことなどに課題が見られる。また、コロナ禍の学校活動について一層の工夫や取り組みの継続が求められる。今後は、授業形態を工夫したり、情報や成果物を家庭と共有して連携を図ったりするなど、児童・保護者の健康や生活習慣に対する意識の向上を図りたい。
- 児童指導に関して、校内での挨拶に関しては意識の定着が図られつつあるが、「どこでも・自分から」とまではいっておらず、指導の継続が必要である。きまりやマナーを守ること・時と場に応じた言葉遣いについては、意識が十分に高まっているとは言えない状況であることから、学校・家庭・地域と連携しながら更なる指導の強化を図りたい。
- 特色ある学校づくりに関して、今年度は実施できないものも多かったが、地域の人材や教育資源を有効に活用した「富屋再発見」や「ホタル学習」、「民話活動」等の行事を通して、地域に愛着を持つ児童が増えている。
- 市の平均と比較し、教職員の評価が低いA3「きまりやマナーを守った生活」、A4「時と場に応じたあいさつ」A5「目標に向かって粘り強く取り組む」A12「持続可能な社会への関心」については、学校生活全般において、具体的な取組を強化し、拡充を図りたい。またA20「勤務時間を意識し業務の効率化を図る」については引き続き、校務分掌の見直しや業務の効率化を目指していきたい。

7 学校関係者評価

- ・地域とのかかわりは市平均を上回っている。協議会運営がスムーズに行われていることが反映されている。
- ・教職員について宇都宮市平均より評価の低い項目がある。先生方が手を抜いているとは思わないが、ご自身の指導について厳しい評価を与えているように思う。児童の実態を受けてのものだとは思いますが今後も手を抜かず児童の指導・支援を続けてもらいたい。
- ・「時と場に応じたあいさつ」の項目が教職員・児童ともに低い。「あいさつ運動」を見ると多くの子があいさつをしているように思えるが中にはしない子もいて「時と場」に応じることが難しいようだ。あいさつは大人（親を含む）が率先してしないと身につかない。大人をどう巻き込むか今後の課題だろう。折に触れ継続的に確認していくことが必要だ。ただ、今の時代を反映してかこちらは富屋の子と思ひ声をかけてもこちらを知らないという「声かけ事案」となりかねず、難しいところはある。
- ・「持続可能な社会への関心」について評価が低い。具体的にどのように学んでいくのか理解しづらいのではないかと感じる。SDGsという言葉は聞くが我々も含め児童・教職員・ともに「どのような社会」を作ることなのかしっかりと学んでいかないとけない。
- ・コロナ禍の影響でほとんどの行事・事業が中止となった。行われたものも規模を縮小している。地域の教育力を活かした教育活動が来年度も今の状況ではどうなるかわからない。来年度行えるようになることを望む。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

【学習指導】

- 授業の質の向上（授業展開の工夫・改善、めあての明確化と振り返りの充実、基礎・基本の定着と応用力の育成、）
- 主体的な学びの推進（「ふるさと学習」や「ICTを使った学習」の工夫・改善、家庭学習の促進、児童の学びや教育活動に関する情報発信）

【児童指導】

- 基本的な生活習慣の徹底（「富屋小のきまり」の徹底、月間の生活目標における強化、地域と一体のあいさつ運動）
- ・規範意識の醸成（委員会活動等による呼びかけ、児童主体の取組、時と場に応じた言葉遣いの指導）

【健康・体力】

- 健康・体力の向上（メディア等との向き合い方に関する家庭への情報提供、自己肯定感を高める取組の強化）
- 食育の推進（栄養士等と連携した授業の工夫、各種便り等での情報発信と共有、食生活に関するアンケート）
- ・安全教育の推進（日常の安全指導の強化、防災教育の強化、衛生教育の徹底、安全点検の的確な実施、SDGs社会への理解、貢献への意識化）

【特色ある教育活動】（コロナ禍でのかかわりの工夫をしながら）

- 地域の教育資源を生かした活動の推進（「ふるさと学習」の深化・改善、総合的な学習の時間の指導計画の改善）
- 地域における教育活動の促進（多様な人々との交流活動の充実、地区行事への参加促進）